

農宮の  
大西 康之 指導員

# いきいき 菜園生活



企画営業課係長  
大西 康之

## 農薬使用の 留意事項

野菜を順調に生育させるにあたっての最低限の農薬使用が必要な時期ですが、下記の事項に十分留意してください。

### 農薬の取り扱いについて

#### ●確認

農薬容器のラベルには、①どんな作物に適用があるか②どんな病害虫や雑草が対象であるか③薄める倍率や使用量はいくらか④収穫する何日前まで使用できるか⑤使用してよい回数はいくらか⑥使用方法や注意する事項はどうか、などの農薬を効果的にかつ安全に使用するための「使用基準」が表示されています。

この「使用基準」は変更されることとありますが、使い慣れた農薬であっても、必ず使用前にラベルをよく読み確認してから使用することを習慣にしてください。

#### ●薬液の調整

散布に必要な水量に乳剤ならキャップで薬液を、水和剤なら小さじなどで薬量を量り、その後、棒などでよく攪拌・混合します。

#### ●服装

農薬の使用に際しては、必ず帽子・保護メガネ・農業用マスク・ゴム手袋など、皮膚を露出させない防除衣を着用してください。

#### ●散布時の注意

①散布作業は風の強さや風向きを考慮し、必ず風上から散布するよ

う心掛け、薬液が身体に直接浴びることのないように行います。

また、「長時間・連続・日中」の作業を避け休憩をとるようにします。②薬液が周辺の畑や野菜などに飛散・流出しないよう注意します。その作物にだけ薬液がかかるように、できるだけ作物に近づいて散布することや、散布器具の圧力を低めに抑えることなどにも心掛けてください。

③万一、薬液が皮膚に付いたときはすぐに石けん水で洗い流し、衣服を取り替えます。また、散布前の飲酒や散布中の飲食・喫煙は絶対に避けます。

#### ●散布後の注意

①前回で使用した薬液が今回に散布する野菜に対しての「使用基準」に適合しないことや、薬害が生じることとも考えられますので、散布後の散布器具は、タンクやホースなどに薬液が残らないよう、よく洗浄してください。



また、洗浄に使用した水が河川や池に流れ込んだりしないよう適正に処理してください。②作業後は、顔や手足、その他の露出部分を石けん水でよく洗い、うがいを行います。

#### ●使用記録

作物ごとに、使用月日・使用場所・農薬名・薄めた倍率・使用量等を記録するようにしてください。

農薬の最も効果的な使い方は病害虫の発生初期の時点で防除することであり、記録を残して次作の防除に役立たせ、農薬の使用量が最小限ですむようにします。

### ラベル表示の例

適用害虫と使用方法

作物名 ①	適用害虫名 ②	希釈倍数(倍) ③	使用時期 ④	総使用回数 ⑤	使用方法 ⑥
トマト	アブラムシ類	1,000~2,000	前日	3回	散布
ブロッコリー	ヨトウムシ	1,000	14日	3回	散布